

本資料の二次利用、スクリーンショットの禁止

(CPs会員企業の皆様は、HP掲載のCPs総会資料を参照ください)

# CLOMA

企業連携が生み出す新たなイノベーション

## プラ資源循環に向けた取り組み

- 1) 最近の政府、業界の動向
- 2) CPs実証事業の紹介
- 3) 次年度に向けた方向性

CLOMA 南部博美

2026/03/18 農水省・食品プラTF資料

発表 15分 (質疑 5分)

# 日本国内の動向

## 1) 日本成長戦略会議

**強い経済**を作る。責任ある積極財政の考え方の下、戦略的に財政出動を行う。

**日本経済の供給構造を強化**し、所得を増やし、消費マインドを改善し事業収益が上がり、税率を上げずとも税収を増加させることを目指す。

### 成長戦略の肝は、**危機管理投資**

リスクや社会課題に対して、先手を打って供給力を抜本的に強化するために、官民連携の戦略的投資を促進する。

各戦略分野の**供給力強化策**として、複数年度にわたる予算措置のコミットメントなど、**投資の予見可能性向上**につながる措置を検討する。

**官公庁による調達や規制改革**など新たな**需要の創出**や拡大策を取り入れた**官民投資ロードマップ**を策定する。

## 2) プラスチック資源循環に関する業界動向

供給側	<ul style="list-style-type: none"><li>・ MCC、CRJ、CFPの3社が、油化CRパイロット設備（計約5万t処理）にて本年度から<b>商用運転開始</b></li><li>・ 再生材利用の定量目標もなく、リファイナリー集約も進む状況にて、大型油化CRへの<b>本格的投資は困難</b></li><li>・ 供給力強化／経済安全保障の観点では、<b>経産省・製造産業局・素材産業課</b>のイニシアティブの重要</li></ul>
需要側	<ul style="list-style-type: none"><li>・ <b>自動車）グローバル大企業</b>のみで、業界がコンパクト → <b>欧州ELV規制</b>に対して、<b>戦略的に動いている</b></li><li>・ <b>容器包装）国内中小企業</b>も多く、複数の業界が関与 → <b>国内</b>数値規制がないと、<b>足並み揃いにくい</b></li></ul>
消費者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 価格高騰の状況を踏まえると、環境価値による価格アップには<b>総論賛成、各論反対</b></li><li>・ プラスチックの場合、商品（容器も含む）には機能や価値はあるが、<b>再生プラ</b>という環境価値は<b>見えない</b></li><li>・ 過渡期は<b>価格インセンティブ×循環認証のセット</b>での施策が必要</li></ul>

## 論点

制度見直し  
のタイミング

食品分野  
の追加時期

定量目標  
の導入時期

## 制度の点検の方向性

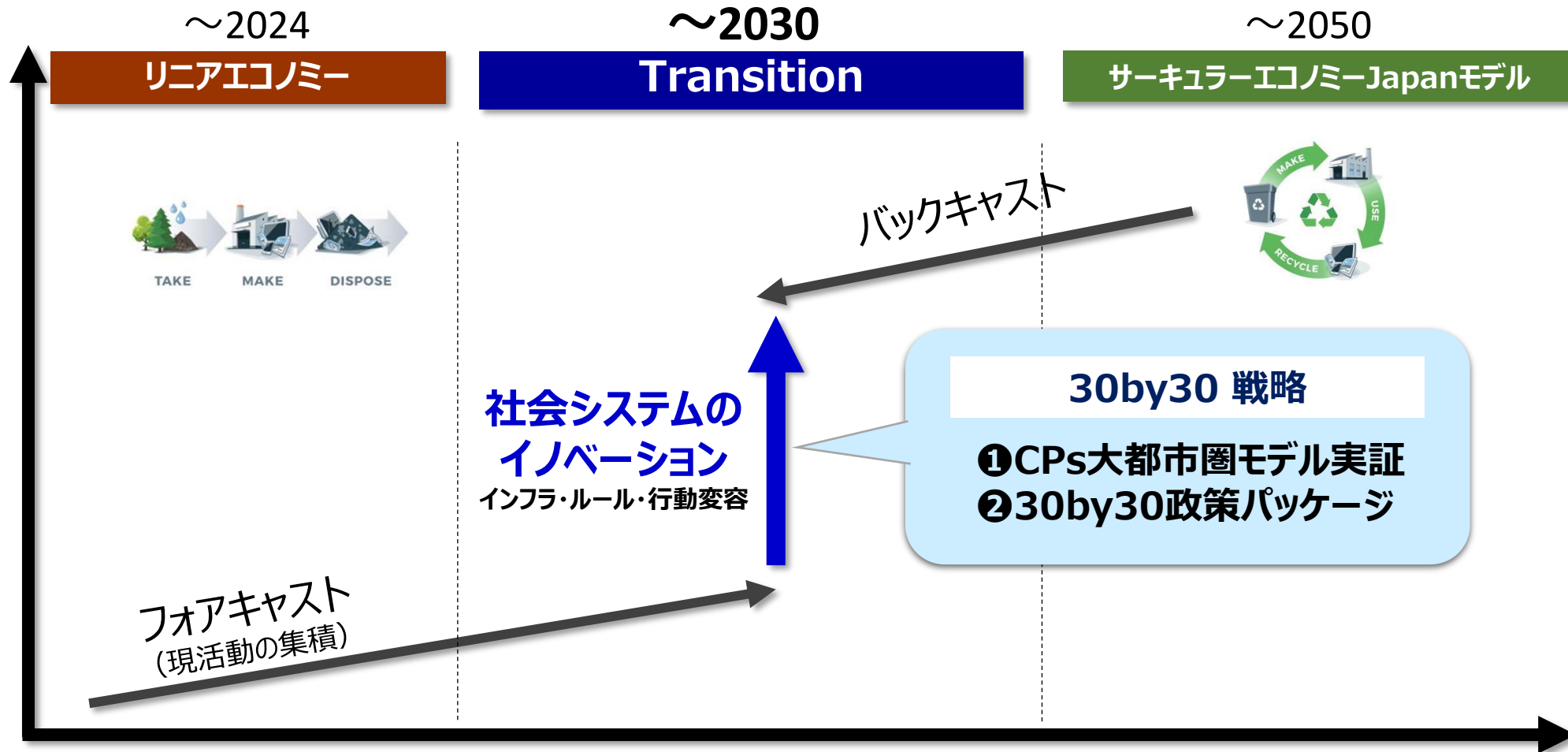
2025年8月12日  
第12回 産業構造審議会  
イノベーション・環境分科会  
資源循環経済小委員会 資料5 (抜粋)

- 2026年4月1日の改正資源法施行後5年以内に、本委員会での議論や、**業界ごとの特性や技術的課題、再生プラスチックの需給バランス、品質、産業競争力等を十分に分析**した上で、必要に応じて**制度の見直し**を実施していく。現時点での方向性は以下のとおり。
- ✓ **対象資源**：プラスチック以外の資源についても、再生資源の利用拡大に向けて議論していく。
- ✓ **対象製品**：今回指定する**3製品以外**についても、回収体制や再生資源利用の技術的可能性等を踏まえて**追加検討**していく。特に**食品容器包装**については、容器包装全体に占める割合が大きいことから、食品業界の実態を踏まえつつ、議論していく。**容器包装の生産量又は販売量の要件である1万トンの基準**について、より幅広い事業者を対象としていく観点から、施行後見直しを実施する。
- 計画及び定期報告の提出開始後、各事業者の利用実態を集計して**日本全体としての再生プラスチックの需要規模を公表**していく。
- ✓ **CPsで策定されるロードマップ等も活用**しながら、将来的には、**定量目標の導入**について検討していく。

農水TF

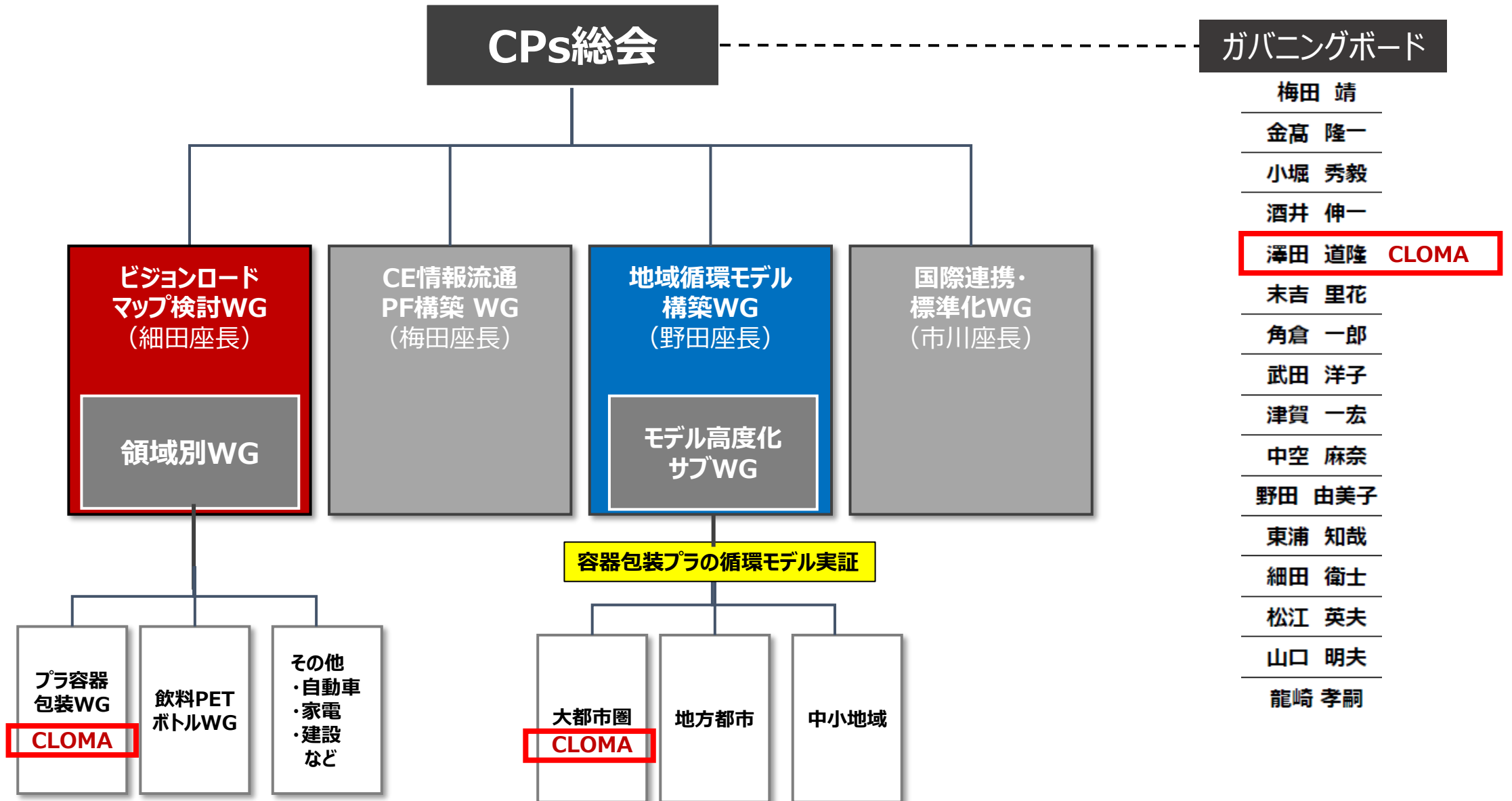
CPsの  
活動が重要

# CLOMAの方針 Circular 30by30戦略



国の政策の実働部隊としてCPsの活動を推進

# サーキュラーパートナーズ CPs の体制



### CPs実証事業 大都市圏での資源循環モデル

- 人口密度が高く、オフィス・店舗・工場・家庭等から大量のプラスチックが廃棄される**大都市圏（首都圏及びその周辺地域）**を対象とする。
- オレフィン樹脂やPET樹脂についてケミカル/マテリアルリサイクルを実証し、**首都圏全体での循環型サプライチェーンのモデル構築**を目的とする。

#### なぜ？

##### なぜ、首都圏？

- **必要なインフラが集積**
  - ・半径50km圏内に廃プラが集積（約30%）
  - ・石油コンビナートなど製造業が集積
  - ・物流インフラが集積

##### なぜ、オレフィン類はケミカルR？

- MRでは食品グレード困難
  - ・HDPE、LDPE、PPなどの選別が不可
  - ・多種添加剤の使用（除去困難）
  - ・臭気や成分など化学物質が深く浸透

##### なぜ、PETトレイ類はマテリアルR？

- AI選別の活用で食品グレード可能
  - ・PETは単一素材が多く、正確に選別可
  - ・添加剤がほぼ使用されていない
  - ・化学物質の浸透が浅く少ない（アルカリ除去可）
  - ・飲料PET技術の転用が期待できる

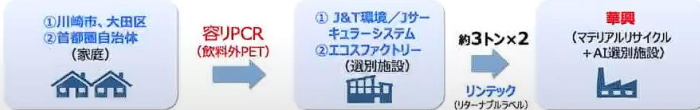
#### a) 工場等から発生するプラスチック廃棄物（オレフィン樹脂）のケミカルリサイクル



#### b) オフィス・店舗等から排出される事業系プラスチックに含まれる オレフィン/PS樹脂のケミカルリサイクル



#### c) 家庭から排出される容器プラに含まれる PETトレイ類のマテリアルリサイクル



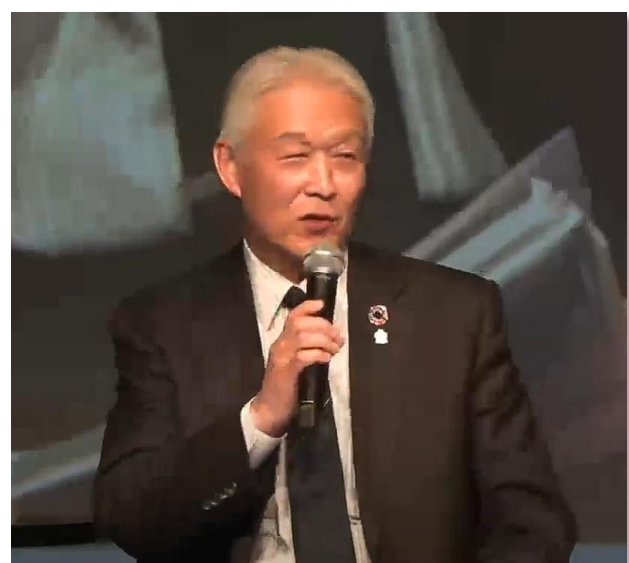
### 澤田会長コメント

・CE推進するには直球と変化球の両方が必需  
 (直球) CPsを中心に進めるの取り組みは重要  
 (変化球) 例えば推し活の様な取り組みも必要



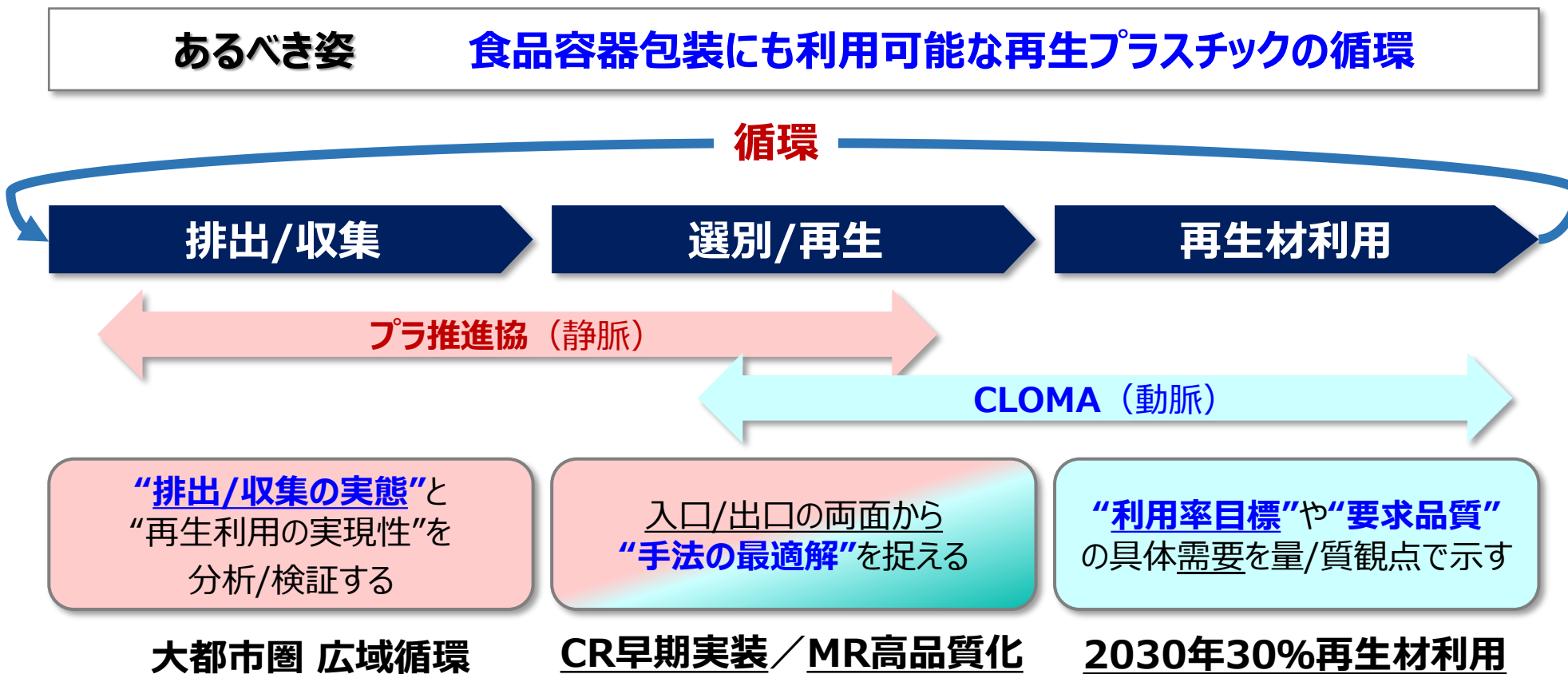
その他の動画

78



CPs総会の当日アーカイブ動画及び説明資料を公開しました

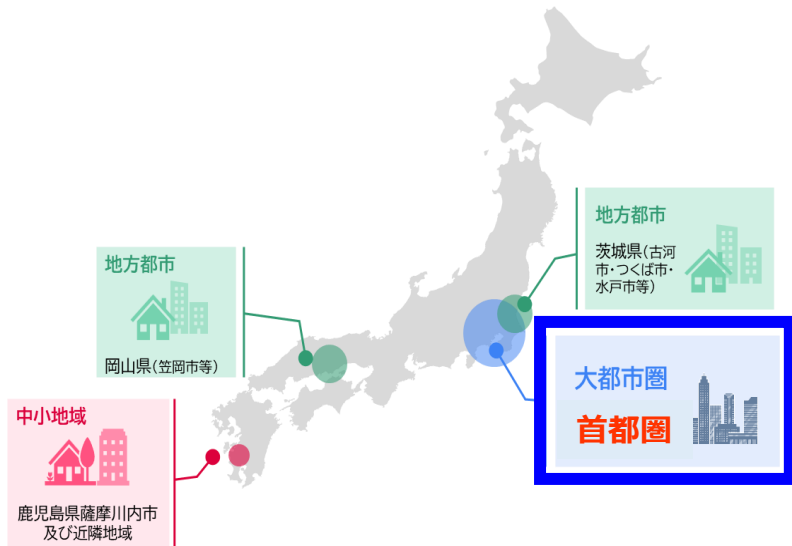
## ■ CLOMA / プラ推進協 合同チーム



あるべき姿の具現化に向けて、CLOMAは大都市圏での実証を進める

- 人口密度が高く、オフィス・店舗・工場・家庭等から大量のプラスチックが廃棄される**大都市圏（首都圏及びその周辺地域）**を対象とする。
- オレフィン樹脂やPET樹脂についてケミカル/マテリアルリサイクルを実証し、**首都圏全体での循環型サプライチェーンのモデル構築**を目的とする。

## 3つの実証モデル



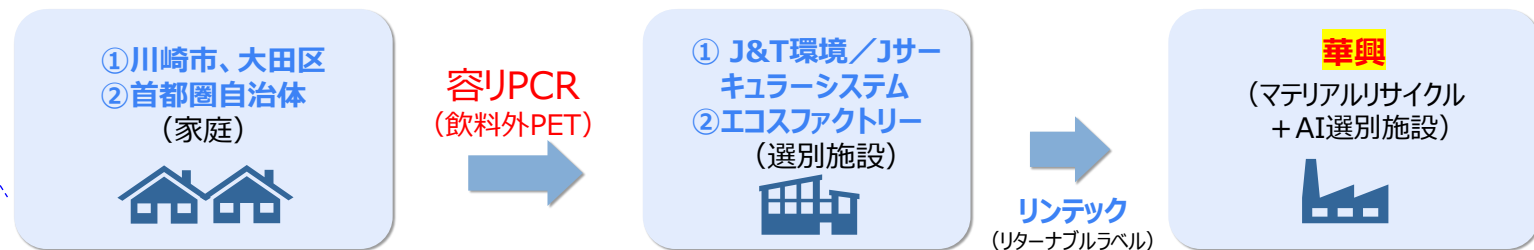
### a) 工場等から発生するプラスチック資源（オレフィン樹脂）のケミカルリサイクル



### b) オフィス・店舗等から排出される事業系プラスチックに含まれるオレフィン/PS樹脂のケミカルリサイクル



### c) 家庭から排出される容器プラに含まれるPETトレイ類のマテリアルリサイクル



- 人口密度が高く、オフィス・店舗・工場・家庭等から大量のプラスチックが廃棄される**大都市圏（首都圏及びその周辺地域）**を対象とする。
- オレフィン樹脂やPET樹脂についてケミカル/マテリアルリサイクルを実証し、**首都圏全体での循環型サプライチェーンのモデル構築**を目的とする。

## なぜ？

### なぜ、首都圏？

→ 必要なインフラが集積

- ・半径50km圏内に廃プラが集積（約30%）
- ・石油コンビナートなど製造業が集積
- ・物流インフラが集積（陸・海・空）

### なぜ、オレフィン類はケミカルR？

→MRでは食品グレード困難

- ・HDPE、LDPE、PPなどの**完全**選別が不可
- ・多種添加剤の使用（後工程での除去困難）
- ・臭気や成分など化学物質が深く浸透

### なぜ、PETトレイ類はマテリアルR？

→AI選別の活用で食品グレード可能

- ・PETは単一素材が多く、正確な選別が可能
- ・添加剤がほぼ使用されていない
- ・化学物質の浸透が浅く少ない（アルカリ除去可）
- ・飲料PET技術の転用が期待できる

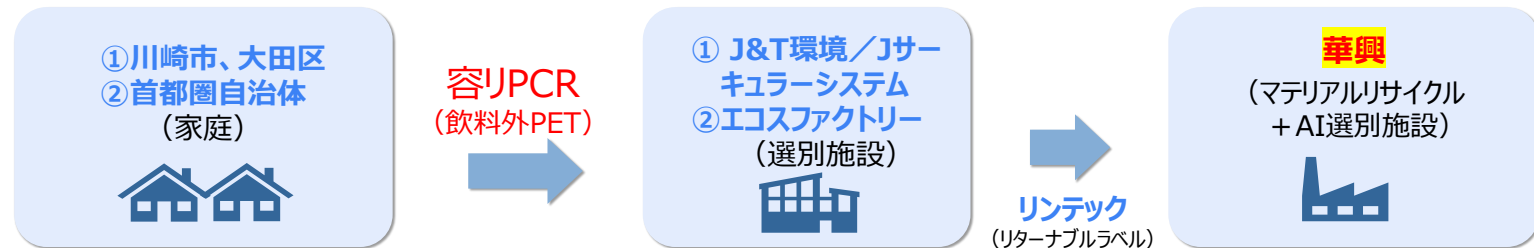
#### a) 工場等から発生するプラスチック循環資源（オレフィン樹脂）のケミカルリサイクル



#### b) オフィス・店舗等から排出される事業系プラスチックに含まれる オレフィン/PS樹脂のケミカルリサイクル



#### c) 家庭から排出される容リプラに含まれる PETトレイ類のマテリアルリサイクル



# オレフィン類のケミカルリサイクル実証

■ 首都圏に油化ケミカルリサイクル設備（廃プラ2万トン処理）を持つ、大手CR 2社により異なる廃プラ原料にて実証



イメージ画像

東洋製罐  
大日本印刷  
カナオカ

**産業系PIR**  
工場端材廃材  
(印刷済みフィルム含む)

リファインバース



**三菱ケミカル**

ラボと実機にて油化



イメージ画像

日本ポリプロ  
日本ポリエチレン  
再生材を製造

東洋製罐  
大日本印刷  
カナオカ  
**食品容器包装材**

(未実施)

排出・回収

中間処理

**再資源化  
(油化CR)**

再生材製造

容器製造

商品製造

ライオン本社ビル  
大丸東京  
コーププラザ

**事業系PCR**

- ① オフィス・店舗の飲食プラ
- ② 百貨店包材



イメージ画像

首都圏環境美化  
→ 進栄化成  
(ペレット化)

パイロット設備にて油化

**ケミカルリサイクル・  
ジャパン**

(未実施)

※出光興産子会社

(未実施)

(未実施)



ケミカルリサイクルジャパンHPより  
2026年4月 実機にて商業運転開始予定

<https://www.cleanipedia.com/id/kepedulian-lingkungan/manfaat-sampah-anorganik.html>

## ■事業化にあたっての共有課題と必要な取り組み

- 油化ケミカルリサイクルに適した**廃プラ原料の効率的調達**（質・量・コスト）
- 経済性確保及び規模拡大のための**再生材の需要創出**（量・適正売価）
- 廃プラ原料の回収から再資源化、利用までの**信頼性確保**（トレーサビリティ）



課題	排出・回収	中間処理	再生材製造	容器製造	商品製造
✓効率的な回収インフラ ✓禁忌物 ✓食品残渣 ✓異物・印刷インク	✓オレフィン選択 ✓禁忌物除去 ✓洗浄 ✓印刷インク除去	✓経済性(石化由来プラとの値差) ✓マスバランス認証、トレサビ管理 ✓再生材需要の予見可能性			

# PETトレイ類のマテリアルリサイクル実証

- **PETの組成調査**： 容器包装プラの2割を占める**PET製容器包装の組成調査**による排出実態の把握
- **アルカリ洗浄**： PET食品トレイのリサイクル技術（アルカリフレーク製造）の検証、及び**アルカリ易剥離ラベル**の剥離性評価
- **AI選別**： 容器包装プラ等に含まれるPET製トレイ、食品ボトル、非食品ボトルの**AI選別の可能性**の評価

食品トレイ 約40%



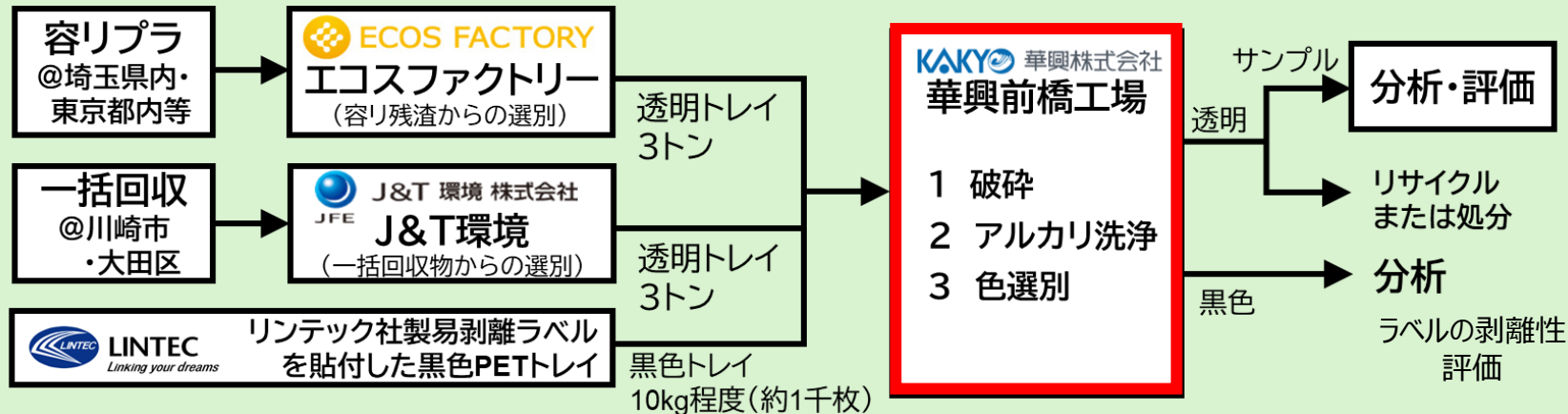
食品ボトル 約15%



非食品用ボトル 約15%



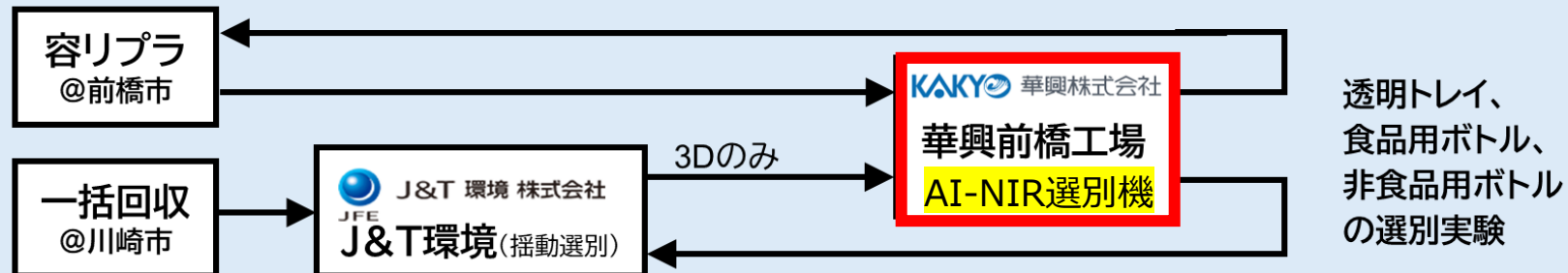
## 食品PETトレイのアルカリ洗浄



破碎・アルカリ洗浄後

- IV値の低下なし
- △ 少量ラベル残存
- △ フレークサイズ不均一

## PET容器のAI選別



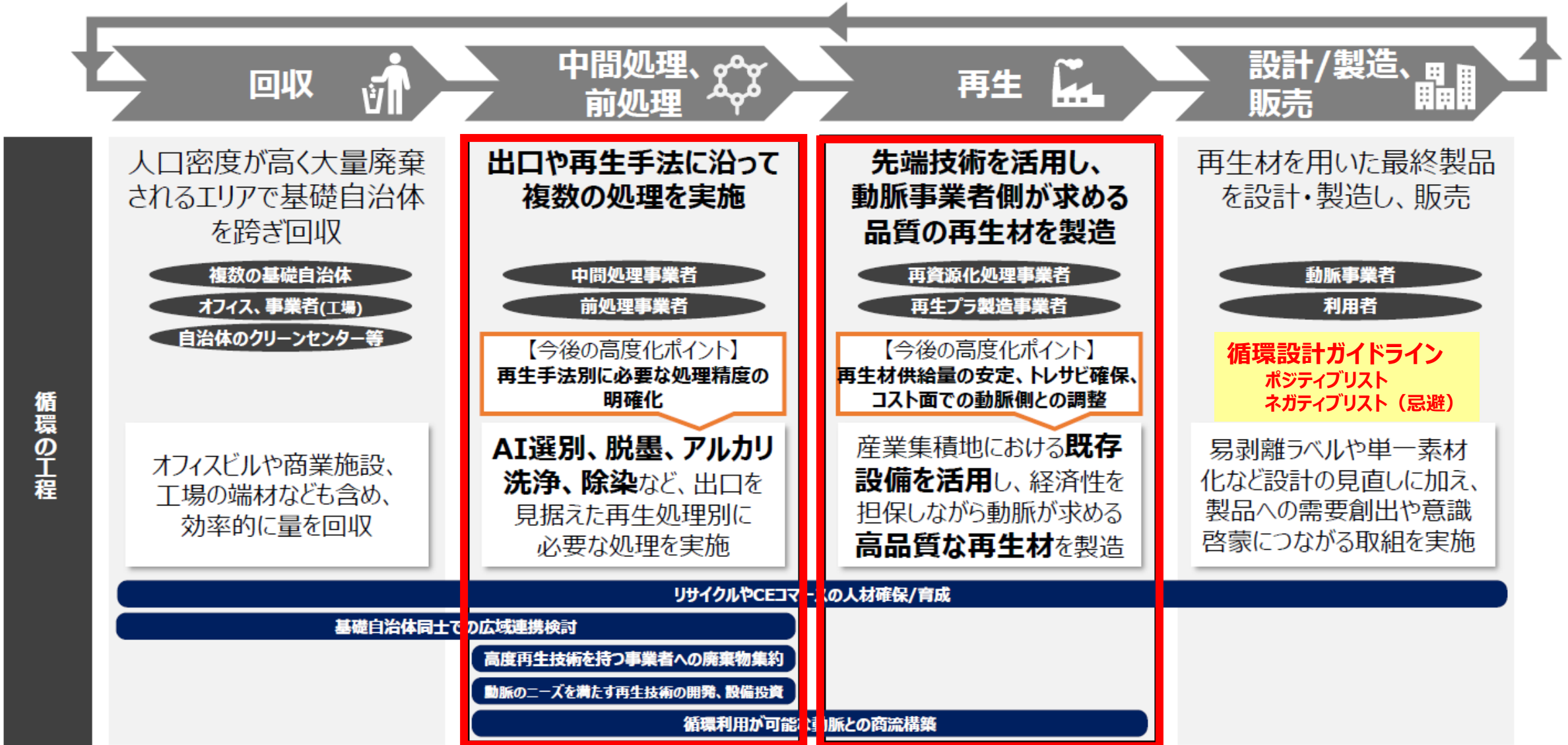
高い選別精度の  
可能性を確認  
( > 95% )

## ■華興株式会社でのPETアルカリ洗浄、AI選別テストの様子

【華興動画】



- 大規模リサイクルは、**動脈事業者の需要**やそれを満たすために必要な**再生手法に沿って複数の中間処理や前処理**を実施していることが特徴である
- 今後本取組を高度化していくためには、**手法別に必要な処理精度を明確化**したり再生材**供給量の安定化**やトレサビ確保、動脈側との価格面での調整が必要である



## 【A:再生材の量・質・コスト】

- CR:再生PE/PPは石油由来比で2~3倍、CR配合の容器包装でも概ね1.5倍前後(売価前提)→**出口の受容と量確保が前提**
- MR(中小):フレーク売却益が小さく、分別の費用対効果は限定的(<1%等)、自治体コスト影響も数%程度→**プラ単独は成立しにくい**
- 成立条件:①回収量集約(スケール)②前処理最小化(必要十分品質)③他資源との同時処理(不燃・粗大/金属等)で収益源を複線化

## 【B:地域特性に応じた適切な循環圏の範囲について】

- 大都市圏:物量・排出源多様→**MR/CR併用・高度前処理の実装余地**(ただし入口品質管理が必須)
- 地方都市:**中核ソーティング拠点+周辺広域回収**が現実的。輸送距離/頻度が成立性を左右
- 中小地域:単独では量不足→**複数自治体連携+既存インフラへの集約**。狭路・空洞品等で輸送効率課題→**減容・運搬設計が肝**

## 【C:国の政策や方針および今後の進め方】

- 4目的への寄与:資源制約(国産再生材供給)/環境制約(焼却削減・CO<sub>2</sub>)/成長(MR/CR市場・投資)/Well-being(住民負担最小化・地域雇用)
- 必要政策:広域連携・越境の運用明確化/試行的取組(独自処理等)の位置付け/品質指標・評価法の標準化/認証コストの合理化/需要側(動脈・ブランド)の設計転換・プレミアム受容促進
- 時間軸:短期=運用整理・合意形成/中期=広域化・設備増強・出口開拓/長期=設計段階からの転換・全国展開

## ① 政策パッケージ

## 日本の供給力強化に向けた政策提言

- 1) **予見可能性**のための制度
  - 2) **需要の創出**に繋がる政策
- ・再生材**数値目標**の早期制度化のシナリオ策定  
・過渡期における**時限的な値差支援政策**・公共調達

➡ **政策パッケージ  
検討チームの組成**

## ② CPs実証・実装

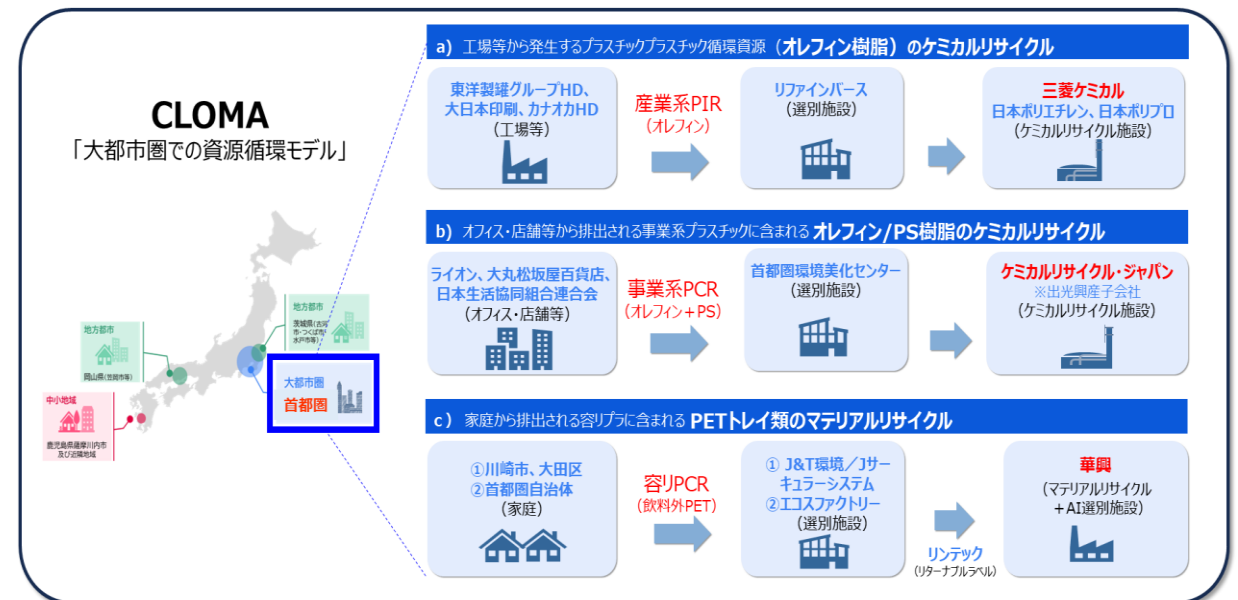
## 社会実装を目指した取り組みの深化と座組・連携の拡大

### 1) 取り組みの深化

- ・効率的な**回収ルート**の設計
- ・AI 等の**DX技術**を活用した高度な選別・前処理の導入
- ・サプライチェーン全体の**コスト構造**分析と事業性検証
- ・循環型**容器設計**ガイドラインの提案

### 2) 座組・連携の拡大

- ・**PS循環Proj**立ち上げ（日清食品HD）→ **農水省連携**
- ・**需要側**企業の参画（小売り、ブランドオーナー）
- ・都内**デベロッパー**との連携（商用施設・オフィス）
- ・**他業界**との連携（自動車、家電、PET業界）
- ・**他プロジェクト**の合流（川崎市Proj、日用品ボトルProj）



# CLOMA説明資料の取り扱い

(CPs会員企業の皆様は、HP掲載のCPs総会資料を参照ください)

## ■ 二次利用の厳禁

資料に使われている写真素材は、著作権や肖像権などに関わること、  
CPs実証に関する資料を含むことにより、二次利用厳禁。

## ■ スクリーンショットの禁止

オンライン参加からの資料のスクリーンショット、プリントスクリーンの禁止。

## ■ 必ず事前にCLOMA南部まで確認

上記の理由により、本資料の情報や素材を加工したり、二次利用したり  
する場合には確認をお願いします。また、出展の明記も必須とします。

【連絡先】

グリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス(CLOMA)事務局 南部博美

E-mail: h-nambu@jemai.or.jp